



平成26年11月4日

各 位

会 社 名 株式会社 東京一番フーズ  
代表者名 代表取締役社長 坂本 大地  
(コード番号：3067 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役副社長 井野 一三美  
(TEL：03-5363-2132)

当社グループ出資先である株式会社食縁の新体制と事業計画の発表及び  
当社子会社である株式会社長崎ファームの「近大生まれのブリ」養殖開始の決定について

新宮市と近畿大学の支援のもと設立された和歌山県新宮市の「株式会社食縁（本社：和歌山県新宮市、代表取締役：有路昌彦（近畿大学農学部水産学科准教授）以下、食縁）」が平成26年11月2日に新体制と事業計画を発表致しました。当社子会社である株式会社長崎ファーム（以下、長崎ファーム）は、第一次産業者として筆頭株主であり、同日に開催された株主総会にて長崎ファーム代表取締役の良川忠必が食縁の取締役に就任し、今後、食縁の戦略策定・遂行の中核的な役割を担っていく体制となりました。

食縁は、国内有数の養殖業者及びIT企業・餌料メーカー・包材メーカーが出資し、海外にブリ、マダイ、とらふぐを中心とした国産養殖魚加工品を販売する「ジェネリック（包括的）マーケティング」の拠点として、和歌山県新宮市に鮮魚加工場を置き、新宮埠頭から海外販路を拡大していきます。

長崎ファームは、食縁の事業展開との取組みの一つとして、近大種苗である「近大生まれのブリ」の周年生産体制を構築すべく、長崎県平戸市の自社養殖場にてブリ養殖を開始することを決定致しました。加えて、長崎ファームの主力魚種である「とらふぐ」もブリの海外市場獲得に合わせ、市場開拓戦略を開始致します。

また、平成26年9月3日に近畿大学と食縁との間で「水産業の発展に関する協定」を締結し、食縁は養殖種苗、生産規格基準支援、品質向上等について、近畿大学による研究支援を受けつつ、実践的な事業展開を実現する関係性が構築されています。これにより「近大生まれのブリ」のブランド養殖魚などで1兆円規模の拡大を続ける欧米の水産市場へ販売を目指す方針です。

記

1. 食縁事業計画

時期	内容
平成26年12月	加工工場設計終了、建築確認申請、テストマーケティング開始
平成27年1～2月	工場建設開始
平成27年11月	工場本格稼働
平成28年3月	HACCP認定取得
平成28年4月	輸出開始
平成28年7月	第1期 夏ブリ販売開始
	年間3,000トン規模の輸出販売を予定

## 2. 長崎ファームのブリ養殖開始の決定について

長崎ファームにおいて、平成28年9月期に出荷予定とするブリの養殖開始を決定致しました。

養殖場所	長崎県平戸養殖場
開始時期	平成26年12月以降
出荷規模	初年度30,000尾を予定

## 3. 株式会社食縁概要

本社所在地	和歌山県新宮市三輪崎3006
代表取締役	有路昌彦（近畿大学農学部水産学科准教授）
事業内容	近大種苗を用いた国内養殖魚をフィレ加工し、機能性フィルムで包装・凍結して販売する。本格的な海外マーケティングを行い、日本の養殖業を成長産業にする。
株主	新宮港埠頭（新宮市第3セクター）、自然産業研究所（近大ベンチャー企業）、長崎ファーム、徳島魚市場、積水化成工業、ダイニチ、安高水産、富士通、尾鷲物産、兵殖、中部飼料、マリン大王 合計12社

## 4. 業績への影響

出荷予定時期は平成28年9月期であるため、平成27年9月期の業績に与える影響は軽微であります。

以 上